



明化の教育

2月号（第464号）
平成31年1月31日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹



「真・善・美」を求める心・感じる心を大切に育みたい

副校長 齋藤 道子

2月を迎え、3日の節分は、「季節を分ける」という意味で、暦の上では、春となります。私達教職員は、いつも3学期を迎えると、「行く1月」「逃げる2月」「去る3月」とよく口にしませんが、正にあつという間に過ぎた1月でした。6年生が卒業するまでの登校日数は、2月1日から数えると僅か35日となりました。思い出深いこの学び舎を去る6年生はもとより、これまで多々お世話になった在校生にも、6年生と共に過ごす時間を大切にしてほしいと思います。

去る1月24日・25日・26日に3年に一度の展覧会が開催されました。どの学年も「平面作品」「立体作品」「学年協同制作品」を展示し、5・6年生は、家庭科で作った作品も展示しました。いつもは閑散としている体育館が、一夜にして素晴らしい美術館となりました。会場に入ると「美」の世界に包まれ、創造性溢れる一つ一つの個性豊かな作品が、参観者に「見て見て！ 私の作品」と誇らしげに呼びかけてくるようでした。



「人工知能 AI」到来の時代を迎え、多くの可能性に胸を躍らせる一方で、AIにはできない私達人間だけができることや人間の価値とは何か等について、改めて考える機会も増えてきています。そうした中で、私自身は「真・善・美」、そして、その先にある「聖」なる世界を求める心を大切に育んでいきたいと思うのです。

「真」とは、「真理」＝「正しい本当のこと」で学問の世界に通じます。また、「善」とは、「善行」＝「善い行いのこと」で法律や道徳の世界に通じます。さらに、「美」とは、「美しいこと」で芸術の世界に通じます。そして、これらは「善なるものは、正しく、美しい」と言う言葉に統合され、私達人間が、生涯を通して目指す「人としてのよりよい生き方」に繋がるものと受け止めます。

「正しいものを正しい」・「善いものを善い」・「美しいものを美しい」と感じる感性や心を、これらもご家庭や地域との連携を図りつつ、豊かに育んでいきたいと思います。本年度も残すところ後2ヶ月となりました。有終の美を飾るべく、なお教育活動に取り組んで参りたいと思います。

本校職員 用務主事 小黒 一浩さんを偲んで

本校に用務主事として4年間お勤めいただきました小黒一浩さんが、1月27日にご逝去されました。子供たちのことが大好きで、いつも笑顔で学校の縁の下の力持ちとして学校を支えてくださいました。小黒さんが私達に掛けてくださった愛情や思いを大切に、より一層皆で明化小学校をよい学校にしていきたいと思います。小黒さん本当に有難うございました。心より深く感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。